

## 「31年度アンケート分析」と「令和2年度に向けて」

※「達成されている」「ほぼ達成されている」を肯定的評価として、  
「あまり達成されていない」「達成されていない」を否定的評価と捉えての分析

### I 確かな学力を育む教育・・・設問1～3

学力向上に力を入れ、「わかる・できる」を大切にした授業づくりを行ってきたが、約20%の生徒や保護者が達成されていないと感じている。「意欲的な授業」について評価した保護者・生徒も70%に留まった。「授業がわからない」「意欲的に取り組めない」と感じている生徒がいることを認識し、授業改善を行っていく必要がある。

また、課題に対しては、しっかり取り組めなかった生徒が約30%いる。課題のあり方について検討していく。

- ・「主体的、対話的で深い学び」を達成するために、問題解決的な学習や体験学習を積極的に取り入れ、生徒が思考し、生徒の意見で学びが深められる授業を行う。
- ・生徒が自分の思った意見をきちんと伝え合うことができる学級の基盤づくりを行う。
- ・毎日の課題については、朝の時間を学習にあてることで、わからない問題に対してじっくり取り組む時間をつくった。来年度も同じように進めることで、苦手に向き合う時間をつくる。
- ・教科の課題については、進度に応じて計画的・自主的に学習を進めていけるように支援する。
- ・課題では、個々の習熟度に応じた自主的な学習を取り入れることで、個々の成長へつなげていけるようにする。

### II 豊かな人間性を育む教育・・・設問4～7

特に「いじめへの対応」においては、保護者、生徒ともに、高い評価を得た。引き続き報告・連絡・相談を徹底し、迅速に対応していく。思いやりの心については、生徒自身は控えめな評価に留まったが、保護者、教員共に昨年度より評価が高くなった。道徳の授業研究を推し進める中、生徒の善い行いに目を向け、認め、更に自己肯定感が高められるようにしたい。

あいさつについては、80%の生徒ができていると評価しているが、教員や保護者の評価は70%に留まっている。更なる向上が期待されている。

- ・いじめなどの問題行動については、小さなトラブルを見逃さず、報告・連絡・相談を徹底し、情報の共有を図る。迅速な対応を心がけ、必要に応じて外部機関との連携を図っていく。
- ・思いやりの心を高めるため、日常生活での生徒の善い行いを積極的に認め（広見賞）たり、道徳の授業を充実させたりして、今後も生徒の自己肯定感を高めていく。
- ・納得できる理由を伝え、生徒に考えさせる生徒指導を心がける。
- ・あいさつの意味やよさを生徒自身が実感することで、自主的な活動へとつながるように支援する。

### Ⅲ 健康と体力を育む教育・・・設問 8, 9

特に、教員の評価が昨年度より低くなっている。朝の部活動がなくなり、夏の活動時間が短縮されるなど、ここ数年、運動時間が減っている現状がある。また、生徒の怪我や骨折などの状況や件数からも、運動の機会が減っていることが感じられる。

規則正しい生活では、生徒や保護者が実態をわかっている。昨年度に引き続き約 30% の保護者や生徒ができていないと評価している。

- ・運動の機会確保については、日課変更で部活動の時間を確保していく。また、部活動や体育の授業への取り寄せ方を見直すことで、体力づくりの機会を積極的につくりだす。
- ・体育の授業や部活動の内容を見直し、運動量を確保していく。体力テストの結果から、本校の課題を分析し、課題となる点を補強する。
- ・規則正しい生活については、主な原因と考えられる課題への取り組み方やスマホの使い方などに対して、全体指導や講演会を実施する。また、保健だよりや学校だよりなどを通して講演会への参観を呼びかけたり、規則正しい生活の大切さを伝えたりしていく。
- ・学校での指導だけでなく、家庭教育という観点から P T A 総会や保護者会、三者懇談会などで、直接保護者へ働きかける。

### Ⅳ きめ細やかな指導の充実・・・設問 10, 11

きめ細かな指導については、個々の生徒に対して行われることが多く、保護者や生徒には伝わりにくい部分も多い。学年や部活動、教科担当が協力し合い、有効的な教育活動を行えていることに対して約 80% の生徒が肯定的な評価をしている。

- ・今後も更に教師の強みを生かした指導を効果的に行うことで、円滑な学年運営や部活動運営につなげていく。
- ・少人数指導のよさを生徒が実感できる授業を行っていく。
- ・通級指導担当教員、スクールカウンセラー、心の教室相談員、あいフレンド、発達障害児等支援補助員などの活動の様子・活躍を、HP やたより等で積極的に生徒や保護者に紹介していく。

### Ⅴ 学校、家庭、地域との連携の推進・・・設問 12, 13

いずれも約 80% の評価は得ている。保護者の自由記述では、「授業参観では教科の授業を見たい」「1 年生から進路の情報を教えてほしい」という意見をいただいた。

- ・授業参観は、年 2 回であることから、道徳とそれ以外の教科となるように計画したい。来年度も引き続き教室へ入って参観していただくように声をかける。
- ・保護者会の内容については、懇談会などで得た情報を学年で共有し、例えば 1 年生から進路に関する情報提供をするなど、保護者の期待に答えられるようにする。
- ・学校だよりや HP では、学校の方針や取り組みなどを具体的に伝えていく。